

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまで生きてこられた生活を尊重し、これからも地域の中に溶け込んで生活される様、見守り寄り添う理念を作っている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の申し送り前に、出勤した職員全員で理念を唱和し、意識付けている。又、理念に基づきケアプランをたて実践している。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	各ユニットの玄関に理念を掲示し、家族には毎月のめぐみ便りで、又、市役所には、理念を掲載したホーム便りを配布している。		家族会、運営推進会議でも、理解してもらえるよう取り組んでいるが、更に努力する。
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣りの老健の人との挨拶はあるが、施設外の付き合いは少ない。ボランティアさんが、利用者とお話相手に気軽に立ち寄られる。		特殊な住宅環境(隣りは田 近くに民家は少ない)なので、日常的な付き合いは難しいが、散歩時、隣近所の人に会ったらこちらから声をかける様努める。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣接する老健との合同行事(あじさい祭り)時には、地域の人にも沢山参加してもらい、地元の人々による、フリーマーケット・食事店・又、演芸などで交流している。		老健合同の作品展(ほのぼの展)への出品、東風小学校での文化祭への作品出品など、地元の行事にこれからもどんどん参加したい。

グループホーム めぐみ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域高齢者への支援は、現在行っていない。		民生委員や校区社協とも相談しながら、グループホームとして役立つ事があれば貢献していきたい。
3.理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を活かして理念の作りかえを行ったり、地域との交流を増やすように努めている。又、利用者がいつでも自由にお茶を飲める様にテーブルに用意している。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価の結果報告、市役所からの実地指導の報告など、全てを運営推進会議で発表し、より良いサービスが出来るよう取り組んでいる。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	今年の2月に市の実地指導を受けた。(初)季節毎のホーム便りを市役所に届けてホームの状況等を伝えている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	老健と合同の勉強会があり、年1回は学ぶ機会がある。入居時に説明を行っている。必要に応じパンフレット、資料等を用意して支援している。		今年4月より福岡県は名称が「地域福祉権利擁護事業」から「日常生活自立支援事業」に変更になったので、めぐみ会議で勉強会を行った。今後も定期的に行っていきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	理念に添ったケアをしているので虐待はない。危険防止の為、ベッド柵を利用する場合は家族の了承を得ている。		勉強会を行い、これからも虐待防止に努めていきたい。

グループホーム めぐみ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだし解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>文章、口頭で説明し、理解、納得を得ている。不安、疑問点は、面会時、家族会時など、いつでも早急に返答出来る様にしている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居時、苦情等相談窓口の説明を文章で渡している。又、意見箱を設けたり、家族会でも意見を出してもらおうお願いし、出た意見は確実に対応している。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月のめぐみ便りで、ホーム全体の事を知らせ(ユニット毎に)又、利用者担当の職員より、個別に報告するコーナーも設けている。面会時には、近況報告やカードックスの開示を行っている。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱を各ユニットの玄関に設け、意見、不満、苦情を自由に言うようになっている。又、家族会を行うにあたって、事前に個々にアンケートを送り(無記名)家族会、運営推進会議で意見を全員分発表した。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>定期的にリーダー会議を行い、職員の意見を聞く機会を設け、検討し運営に反映させるよう努めている。また、毎月末の全職員参加の会議でも話し合いをしている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>入居者の方それぞれに担当の職員がついており、ご家族との話し合いにはその職員が当たるよう勤務調整している。無理な場合は他の職員でも対応できるようにしている。担当職員が入居者の方の個別対応につけるよう勤務表を組んでいる。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>人事異動は最小限にとどめている。新入職員は十分に慣れてから夜勤、宿直に入っている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>募集・採用にあたっては性別、年齢などで決めてはいない。職員にはなるべくそれぞれの得意分野で係りを担当してもらい、生き生きと仕事をしてもらえるようにしている。</p>		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>めぐみの理念に基づいて入居者の方に思いやりを持って接する事ができるよう朝の申し送り時に理念を唱和している</p>		
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修には積極的に参加できるよう勤務調整を図っている。隣接する老人保健施設との合同勉強会も年3回行っており、ホームからも事例の発表をしている。必要と思われる事柄については月末の会議の中で話し合うようにしている。</p>		
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>福岡県グループホーム協議会に登録し、ブロックごとの交流、研修、勉強会に参加し、他のホームの職員と顔なじみの関係を作るよう努めている。</p>		
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>ストレスが溜まらぬよう各々の休み希望にできるだけ副えるよう勤務表を組むようにしている。年3回懇親会を行っている。</p>		
24	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>勤務状況は勤務表、出勤簿で把握している。各自担当の係りがあり責任を持ってホームの運営を担っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり受けとめる努力をしている</p>	<p>面会時、本人から話を聴き受け止める努力はしているが、意思表示困難な利用者も多い。</p>	<p>家族からお話を聴く事は多いが、本人からしっかり聴けるのは、入居後が多い。早い段階での聴取に努め、信頼関係を築いていきたい。</p>
26	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり受けとめる努力をしている</p>	<p>見学时、契約時にお話をよく聴く様にしている。</p>	
27	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>初期、家族との面会時、本人・家族の希望をしっかりと聞き出し、一番必要なサービスを提供出来る様に努力している。</p>	
28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前に、必ず当めぐみでの生活を家族と一緒に見学してもらい、本人が納得した上で入居して頂く様、家族の方に説明しお願いしている。</p>	<p>入居直後、本人が当ホームに慣れられるまで、家族の方に泊まってもらったり、就寝直前まで、家族に付き添ってもらって、入居者本人が安心される様にしている。これからも継続していく。</p>
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり支えあう関係を築いている</p>	<p>長年生きてこられた知識や経験をめぐみ内で発揮してもらっている。(例えば男性職員が、料理の上手な入居者の方に教えてもらったり、障子紙の貼り方やさくらの切り方を教えてもらったり…)</p>	

グループホーム めぐみ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えてい関係を築いている	色々な面で、家族の方の協力を得ている。例えば病院受診の付き添い、日常生活用品の補給など。又、ケアプラン作成時には本人を支える為に、家族としっかり話し合ってたてている。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の方に、めぐみの出入りを多くしてもらおうような機会づくりを心がけている。(家族会 敬老会 催しものの案内)		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう 支援に努めている	家族だけではなく、親戚 知人も多く出入りされている。又、お話相手をする時、馴染みの人や場所を会話内に入れてお話する様努めている。		入居者の方が、行きたいと言われる場所に可能な限り御連れしたいし、スタッフで無理な場合は、家族にお願いし支援していきたい。
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わら合い、支え合えるように努めている	レクリエーションや作業等を一緒にしてもらい、共に完成の喜びを分かち合う様にしている。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	病院に入院になった場合でも常に見舞いに行ったり 家族にも、心配事、相談ごとには、いつでも相談にのる事を伝えしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人の思いや希望、意向など、日々の生活の中で聞きだし把握する様努めている。</p>	<p>その人らしい暮らしを続けられる様、これからも本人の気持ちをしっかり聞き、受け止めていきたい。</p>
36	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居前、家族から、これまでの生活歴や生活環境などを聞き、入居後は、本人・家族から折に触れより詳しく話を聞かせてもらっている。</p>	<p>これからも家族面会時や家族を含めたカンファレンス時に、これまでの生活習慣などを聞き把握、する様に努める。</p>
37	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するよう努めている</p>	<p>介護記録、申し送りで一人ひとりの状態を把握している。</p>	
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>家族とのカンファレンスを6ヶ月に1回、ユニットスタッフ全員でのカンファレンスを毎月1回、又、必要に応じて話し合いを持ちより良いケアプランを作成している。</p>	
39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に1度見直しを行っている。</p>	<p>色々な問題が起こってスタッフ全員で話合っても、新たにケアプランを書き直さない事もあるので、必ず現状に即したケアプランを作成する。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践 結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の日々の介護記録を確実に記入して、ケアプラン作成時に役立てている。		
3.多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	個別対応してる。(外出・買い物・急変時の受診等)		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	定期的(2ヶ月に1回)に消防訓練を行っている。ボランティアのお話相手、歌等の慰問。運営推進会議に民生委員、地域包括支援センター職員に参加してもらっている。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在利用している人はいないが、以前家族の希望でサービス事業者を利用して通院介助をお願いしてた。		これからも必要に応じて行って行きたい。
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターの要請で、要支援2の利用者の受入れをした。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からのかかりつけ医に受診して頂いている。どうしてもかかりつけ医が無い場合は、当ホームで紹介している。		

グループホーム めぐみ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり利用者認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	本人のかかりつけ医、主治医に変化時、電話や文章で相談にのってもらっている。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	管理者の一人は准看護師であり隣接する看護師と連携を取り常に利用者の健康状態を把握している。		
48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるようまた、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	認知症の為、病院側より早期退院の相談があった場合には、直ぐに利用者の受入れを行っている。		
49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族会やカンファレンス時に、家族の方に説明を行っているが、主治医との話は、入居者全員が出来ているとはいえない。		病気の方は入院して頂き、老衰の方は当ホームでと考えているが、主治医の協力や家族の協力がなかなかえられそうに無いのが実状である。十分な話し合いや、準備が必要。取組んでいきたい。
50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をよ良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	まだ、その様な事例は無い。		今後に備えて、検討準備していきたい。
51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	退去時には現状を書面にして通知している。やむを得ず家族の都合で退去される場合には、本人に苦痛、負担がかからない様に家族にお願いしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1.その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	本人の自尊心を傷つけない様に配慮している。又、カルテや介護計画書などの個人情報、十分に注意して取り扱っている。		言葉かけや対応の悪いスタッフがいたら、お互いに注意し合い、介護の質の向上に努める。
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたりわかる力に合わせた説明を行い、自分で決めた！納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の意思を尊重し、希望や思いを可能な限り支援している。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限りは心掛けているが、スタッフ不足の時もある。		一人ひとりの希望にそって、行える様にしていきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理・美容は、本人が希望する店に家族が連れて行くことは可能。特に希望がなければ、隣接する施設で毎週1回理・美容のサービスがある。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力に応じて、食事の準備や片付けを分担して行っている。		
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	タバコを吸われる方はいない。酒は常には無理だが、行事時(正月 敬老会・あじさい祭り)に飲んでもらっている。コーヒー・ジュース・牛乳は、ほぼ毎日、本人の希望に沿って出している。		

グループホーム めぐみ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンをつかむ為、記録を確実に行ったりと、汚染の多い利用者はトイレの周期をつかみ、その時間帯に合わせてトイレ誘導している。		
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決められているが(火・木・土)入居者の希望の順で入浴はできる。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	休息したい時は休息していただき、夕方から夜にかけては、緑茶をカフェインの無い麦茶にするなど工夫している。		
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	レクリエーション、行事等皆で楽しむ事以外でも、ドライブ、散歩、買い物等で気晴らしを行っている。又、個別対応でその人の出来る役割を把握して、生き生きと生活していただける様支援している。		その人らしい生活が継続出来る様に、適切なアセスメントをしてケアを行っていく。
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の能力に応じた対応をしている。金銭管理の出来る方には、自分で所持・支払いをしてもらっている。金銭管理が困難な方については、職員が介助しながら、なるべく本人で使っていただくように支援している。		買い物の支払は、なるべく自分で支払ってもらう様に個別対応していきたい。
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	可能な限り、本人の希望にそって散歩・ドライブ・買い物に出かけている。日課の都合上、どうしても行けない事もある。		個別対応して、外出の機会を増やしていきたい。
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい、普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している	個別対応で、外食・買い物に行っている。金銭的理由で個人的に無理な場合は、バスハイクや地域の祭りなどに数名で参加できるように積極的に支援している。		個別対応で支援していきたい。

グループホーム めぐみ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や本人の希望にそように支援している。認知症が進んだ利用者にスタッフが声をかけ、見守りながらかけていただいている。		電話だけではなく、手紙も書いていただく様に支援していきたい。(あくまでも本人の意向にそっておこなってきたい)
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	笑顔で挨拶を心がけている。お茶などを居室に持って行き、声かけを行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束帯、拘束服などの身体的拘束はしていない。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵をかける事は、行動範囲の拘束であるという事を職員全員承知しているが、危険防止の為、又、家族会からの要望もあり、やむなくかけている。居室の鍵は利用者の自由にしていく。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	プライバシーを害さない様にして、所在確認を常に行っている。		レクリエーション・おやつの声かけ・夜間巡視等で、これからもプライバシーに配慮しながら見守ってきたい。
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	完全に取除くのではなく、危険である場合は場所を変える等して、様子を見ながら行っている。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	勉強会、研修、非難訓練に取り組んでいる。		

グループホーム めぐみ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルを作成している。その都度確認し、話し合っている。吸引機の使い方は度々練習している。		昨年度、老健と合同勉強会で緊急時の対応を月数回行っていたので、今年度もめぐみ独自の勉強会を続けていきたい
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災の場合の非難訓練は、消防署にも協力してもらい定期的に2ヶ月に1回行っている。地震・水害等の災害時の対応については話し合っている。		地域との協力体制を築くよう取り組んでいきたい。
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	家族に対し、予測出来る危険性については説明を行っている。スタッフ間でも対応策を話し合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェック、排便の有無、朝の申し送り等で変化や異変があれば、主治医に連絡を取り指示をもらっている。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	カルテに薬の説明書を保管している為、内容を把握することが出来る。又、薬に変更があった場合には、申し送りノートに書いて全員が分かるようにしている。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎朝排便の確認をし、水分補給や散歩、体操、食べ物に気を配っている。便秘や便秘傾向の人には、主治医と相談して下剤を服用してもらっている。		
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	朝、夕食後口腔ケアを行っている。一人ひとりに応じた口腔ケアを行っているが、自立した利用者には声かけのみである。入れ歯使用の方には入れ歯洗浄剤も使用している。又、家族の希望により、歯科往診にも来てもらっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランス、摂取カロリーを明確にする為、メニューは業者に依頼しホームで3食調理している。水分摂取には特に気を配り 全員に午前10時・入浴後・15時と水分補給をしてもらい、各居室にも朝・夕2回配茶している。又、自由にお茶が摂取出来るように、テーブルにも用意している。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成している。又、老健合同の勉強会で学ぶ機会がある。インフルエンザ流行時には、スタッフ・入居者全員予防接種を受けている。うがい、手洗いの励行にも努めている。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	夕食後、布巾は熱湯に浸し漂白剤で消毒を行っている。まな板は、肉・魚・野菜で使い分けしている。食器は、食器乾燥機を使用している。食材は毎日、新鮮で安全な物を配達してもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関に季節の花や手作りの看板を置き、利用者や家族の方に安心して出入りしていただける様にしている。しかし、近隣の人にとって親しみやすい工夫は出来ていない。		近隣の人にも親しみやすく、安心して出入りが出来る様工夫したいが、周りが田と交通量の多い道なので難しい。玄関周囲の工夫をして近隣の人にも親しみをもってほしい。
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が一日の大半を過ごされる居間、食堂、台所は、ゆっくりのんびり過ごせる様配慮している。食堂から自由にベランダにも出られるし、花を飾った季節感を感じる作品を壁に貼っている。		
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や靴箱の前などにベンチを置き、一人でもゆっくり出来る様にしている。		

グループホーム めぐみ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで、利用者が使用されていた物を持参して頂き安心して生活される方もいらっしゃるが、反対に不穏になられる方もおられるので、様子を見ながら、個々の利用者の過ごしやすい居室作りをしている。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎日の掃除の際、それ以外でも空気の入替えを行っている。気温の状況に応じて、エアコンの使用を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレ・風呂場等、あらゆる場所に手すりを付けている。建物内部に段差は無い。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	本人の意思を尊重しながら、その人の出来る役割を見つけ、自身が持てる様な声かけを行っている。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり活動できるように活かしている	ベランダや玄関外の花への水遣りは、毎日職員と利用者で行っている。又、ベランダには洗濯物や布団を干し、5月にはこいのぼりを立てたりと、色々利用している。隣の老健施設の外周は、散歩道になっておりベンチも用意している。		

.サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の 2/3 くらいの	
		利用者の 1/3 くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に 1 回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の 2/3 くらいと	
		家族の 1/3 くらいと	
		ほとんどできていない	

グループホーム めぐみ

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くない	
100	職員は、活き活きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の 2/3 くらいが	
		職員の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の 2/3 くらいが	
		家族等の 1/3 くらいが	
		ほとんどできていない	

【時に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・インフルエンザの流行時(10月～4月)は、うがい・手洗い・消毒を徹底し、利用者・職員・面会者全員で感染予防に取り組んでいる。
 うがい薬に紅茶を利用している(紅茶は殺菌作用があり、認知症の利用者が飲み込まれても害が無い為)
 精神安定剤や睡眠薬を利用しないで生活が出来るように支援している。
 朝の配茶は緑茶を、夕方は睡眠を妨げないカフェイン0%の麦茶(又はほうじ茶)を使用している。
 避難訓練は、利用者全員参加で2ヶ月に1度行っている。
 ベランダには季節の花や野菜を利用者とスタッフで植え、又、食堂リビングには、リハビリを兼ね利用者の方達が作った作品を飾っている。